

天皇制、戦争放棄、靖国、東京裁判、自衛隊、日米安保……、日本の戦後史で議論され続ける問題に、貴重なアーカイブ映像とインタビューでストレートに切り込んだ異色作



冷戦期アメリカの庇護のもとで、日本は第二次世界大戦の荒廃から経済的復興を遂げた。ソ連の崩壊、中国の市場開放、欧州統合とグローバル化の波は、日本の政治に舵を切らせた。世界の中の日本のプレゼンスを高めるための“国際貢献”である。日本は矛盾と曖昧さの国であると言う。憲法一つをとってもその矛盾は見てとれる。自衛隊の存在と、戦争および軍の保持を禁じた9条。主権在民と天皇の地位の曖昧さ。本作はこれら3本の軸と言える、9条、天皇そして軍隊について、天皇の貴重な映像をはじめ世界中から集めたアーカイブと、いまや鬼籍に入った政治家の田英夫や中川昭一など国内外の論客による秘蔵インタビューを交え、日本の戦後史を問い掛ける。

戦後70年の2015年、敗戦後、日本のたどった歴史をあらためて考えさせられる海外発の注目作である。

渡辺謙一（わたなべ・けんいち）監督プロフィール

1975年、岩波映画入社。1997年、パリに移住、フランスや欧州のテレビ向けドキュメンタリーを制作。「桜前線」で2006年グルノーブル国際環境映画祭芸術作品賞受賞。近年は『ヒロシマの黒い太陽』（2011）、「フクシマ後の世界」（2012）など、欧州において遠い存在であるヒロシマやフクシマの共通理解を深める作品制作に取り組んでいる。

監督：渡辺 謙一 プロデューサー：オリヴィエ・ミル、渡辺クリスティーン 撮影：エマニュエル・ヴァレット 編集：ファブリス・タブリエ 音楽：ジェローム・クレ  
録音：ステファン・ララ ナレーション：フェオドル・アトキン 制作：KAMI Productions, ARTLINE Films, ARTE France 制作協力：TBS  
宣伝美術：追川 恵子 配給：きろくびと 原題：Le Japon, l'Empereur et l'Armée 2009年/フランス/HDV/90分 [www.kiroku-bito.com/article1&9](http://www.kiroku-bito.com/article1&9)

2010年 FIGRA 映画祭歴史部門コンペティション参加作品

LE JAPON, L'EMPEREUR ET L'ARMÉE

# 天皇と軍隊

横浜ニューテアトル  
045-261-2995

2015. 8. 15

上映開始